

# 文化・芸術



## 木版「富本憲吉模様」から 全16点 展示風景

1915(大正4)年、木版・紙  
Mコレクション(撮影 木暮伸也)

富本憲吉 (1883~1957年)

「模様から模様を作らざらざ」を信条とした日  
本近代陶芸の巨匠・富本憲吉。ここに紹介した全16点の模様集は、早くから富本の木版画を高く評価した画廊田中屋の田中喜作によって刊行されたものです。額裏面には「日本を去らんとするバーナー・ド・リーチ氏にこの書を捧ぐ」のラベルが貼られています。バーナード・リーチ(1887~1979年)は、富本と兄弟のように親交した英国の陶芸家。リーチとの出会いは彼を陶芸の道へと導きました。1911(明治44)年

に、英国留学から帰国した富本は、留学仲間洋画家・南薫造(1883~1950年)と、東京郊外の柏木(現在の新宿区)で共同生活をし、一時期木版画や染織に熱中していました。土をこねつつ、木版画をつくり、その手で凸凹を確かめながら「模様」が生み出されます。道具も方法もオリジナルに追求された富本の木版画は、モチーフへの愛情をにじませます。平塚運一や恩地孝四郎らに衝撃を与え、以後大正期の創作版画運動の先駆けともなりました。(小此木)

## 〈名画の扉〉

大川美術館企画展特集展示  
「コレクションによる日本の木版画」から